大阪教育大学　国際センター発行　『オーバー・ザ・レインボー』2013 年 2 月号

Over the Rainbow Vol. 12

TOPICS

- 日本留学フェア～モンゴル
- 第 3 回国際センターシンポジウム
- 秋季日本文化研修～和歌山方面
- 奨学金贈呈式
- 秋季ホストファミリープログラム
- 柏原市人権推進課・留学生講演
- 門松づくり体験
- 留学生向けプログラム「大阪の文化」
- 短期派遣留学生報告書
- 平成 24 年度後期修了留学生メッセージ
  平成 24 年度卒業生メッセージ
- 語学・文化研修プログラム
  - 韓国文化体験研修
  - アメリカ語学研修
- ◆第 8 回かしわら国際交流フェスティバル
- ◆留学生後援会入会のお知らせ

巻頭言

大阪教育大学　副学長　横井　邦彦

『多様化の中での相互理解』

写真：2012 年 10 月
夏季日本文化研修（和歌山）にて

巻頭言

多様化の中での相互理解

大阪教育大学　副学長　横井　邦彦

私は小学 6 年生の時に家の近くで英語を習い始めました。最初に発音記号とその音を教わったとき、口の開け方、舌と歯の使い方、空気の出し方などで、いつもと異なる音を出ることがとても新鮮でした。その学校のロビーなどでは英語が話されていましたが、別世界のように思っていました。

研究活動を始めてからも英語の講演を聴く機会はありましたが、特に英語で話せなければ困ることはありませんでした。研究内容を国際会議で発表するときも、論文でよく見る専門用語を使えば分かってもらえ（たような気がし）ました。しかし、質問に対する受け答えが満足にできなかったり、会議と離れた食事の時などでは何をどう話せばよいのかずいぶんと困ってしまい、初めて痛切に「英会話は重要だ」と感じました。

それで、ようやく native の先生について対面型で英会話を学びました。その後、Liverpool 大学（英国）へ研究員として行ったとき、研究室では supervisor（オランダ人）の方や同僚（母国はブラジル、フランス、オランダ、バングラデシュ、韓国、など 10 数カ国）と研究については何とか会話ができました。一方、金曜日の夕刻に大学近辺のパブでビールを飲むときには、教科書的な英語から（たぶん遠く）離れた表現が飛び交うようになり、理解不能に陥ったことが何度もありました。

地元出身の technician の方々や町の店舗では、地方独特の方言（Scouse）が話され、私には理解困難でした。家の掃除のために雑貨屋でブラシを探したとき、店内が広くて見つけられなかったので店の人に「brush [brʌʃ] はどこにあるの？」と尋ねたとき、「そんなものはない」と返事がありとても驚きました。絶対にあるはずだと思ってしつこく探してやっと見つけた後「これを探していたんだ」と先の人に見せると、「それは brush [bruʃ] だ」と言われ、わずかな違いでもおろそかにできないと思ったものです。

留学生の皆さんの日本語はとても上手だと思います。皆さんが教科書的な正しい日本語を習得されているからでしょう。一方私たちは様々に省略したり、大阪弁で話したりして皆さんに理解困難な場面を作っていることでしょう。それはそれで良いのかもしれませんが、今後益々、歴史、文化、伝統、習慣などが異なる多様な人たちが時空間を共有する中では、思い込みや先入観を極力少なくし、よく分かり合えるように正しくコミュニケーションできることが重要だと感じています。

日本留学フェア in モンゴル

今年度は、10月5日から7日に、初めてモンゴル・ウランバートルの留学フェアに参加しました。大相撲力士が多く来日していることからも分かるように親日的な国で、熱心な留学希望者が多数来場しました。漢字は使わないものの、文法が似ているせいもあって、留学して来日してから語学の伸びが顕著で、卒業時には成績優秀で表彰されるモンゴル人留学生も多くなっています。

モンゴルでは、豊富な地下資源の開発を目指しており、それらを担う人材の育成が日本に期待されています。また、清涼な気候を活かした太陽コロナの観測など、モンゴルの気候を活かした独自の科学技術も目指しており、こうした人材も求められています。

写真上段
日本留学フェアの様子

写真下段左
古い寺院と高層ビルが
同居するウランバートル

写真下段右
ウランバートル天文台

第3回国際センターシンポジウム

「アジアにおける民族音楽
～初等教育での取り組みを中心として～」

12月5日（水）、アジアにおける民族音楽、とりわけ初等教育での取り組みに焦点をあてた第三回国際センターシンポジウムを本学国際センターと芸術講座の主催により開催しました。参加した学生、留学生、教職員ら約50人は、インドネシア・韓国・台湾・日本から招待されたパネリストらによる各国での小学校音楽教育の現状や課題、グローバル化の時代に固有の伝統文化をどのように次世代に継承していくのか等の講演に熱心に耳を傾けていました。

講演者
Victor Ganap（インドネシア芸術大学ジョクジャカルタ校・教授）
イ・サンギュ（全州教育大学校・教授）
黄　玲玉（国立台北教育大学・教授）
岩井　正浩（愛知淑徳大学・教授、神戸大学・名誉教授）
モデレーター　卜田　隆嗣（大阪教育大学芸術講座・教授）
総合司会　城地　茂（大阪教育大学国際センター・教授）

黄　玲玉教授（台湾）

フィクトル・ガナップ教授（インドネシア）

イ・サンギュ教授（韓国）

岩井　正浩教授（日本）

モデレータの卜田教授（右）と
司会の城地教授（左）による講演者紹介

韓国の伝統遊び（イ教授）

集合写真（左）、栗林副学長による開会挨拶（右上段）、会場の様子（右下段）

閉会の挨拶を述べる向井国際センター長

パネルディスカッションの様子

参加者からは「子どもの頃から自国の伝統文化を学ぶとともに，他国の文化にも触れる機会をもつことが重要だと感じた」「音楽だけでなく，教育全体にかかわる考え方を学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

国際センターでは今後とも学生の国際理解を促し、世界に通用する人材の育成を目指してこのような機会を定期的に提供していきたいと考えています。

秋季日本文化研修
（和歌山方面）

10月20日（土）に秋季日本文化研修を開催しました。穏やかな秋晴れだったこの日、本学留学生56名、日本人学生11名、短期文化研修で本学を訪れていたタイ・ラジャパット大学の学生10名、および引率教職員3名を含む合計80名で、一路和歌山方面へ向かいました。

最初に訪れた和歌山城では城内の展示品をじっくり観察し、疑問に思う事を引率教員に質問しながら充実したひと時を過ごしました。和歌山城天守閣に続く石段は想像以上に長く、往復するといい運動になります。すっかりお腹を空かせた学生達は、その後和歌山の郷土料理に舌鼓を打ちました。

午後からは安珍・清姫伝説で知られる道成寺を散策しました。国宝の千手観音を間近で拝観することができた他、参加学生達は、安珍・清姫伝説ゆかりの絵画や写真を興味深そうに観察したり、境内で記念写真を撮ったりと楽しそうでした。

行程の最後は待ちに待ったみかん狩りでした。みかん畑に到着するや、学生達は事前講義で学んだ「美味しいみかん」を探し始めました。お土産用のビニール袋に詰める傍ら、食べ放題のみかんを堪能する学生達は、甘酸っぱい自然の味を心行くまで堪能したようでした。

春季・秋季日本文化研修は、本学留学生が日本（主に近畿県内）の伝統文化を体験できる機会として開催しているものですが、あわせて国際交流に関心のある日本人学生に留学生と交流する機会をもってもらうことも目的としています。この日も留学生と日本人学生達は、各地での散策や体験をとおして貴重な思い出を共有したように見えました。

今後も留学生の日本文化体験および日本人学生の国際理解をより深めるため、本研修を継続する予定です。

和歌山城天守閣に続く石階段（左上）美味しい～お昼ご飯（右上中）、天守閣でパシャリ！（右上）、道成寺の釣鐘（右最上）
道成寺の境内で（左下）、初めてのミカン狩り！美味しいね～（右下）

奨学金贈呈式｜大阪教育大学留学生後援会

大阪教育大学留学生後援会奨学金贈呈式が 12 月 5 日（水）、柏原キャンパスで行われ、私費外国人留学生に奨学金が授与されました。

奨学金を受け取った学部 3 回生の韓　菁（カン　セイ／中国出身）さんは、「いつも、私たち留学生を支援していただいて有難うございます。言葉に表しきれないほど、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のご支援を有効に使わせていただき、学業に専念します。「後援会の皆さまの支援があったからこその自分」ということを忘れず、卒業後日本で就職し、恩返ししたいです」と感謝の気持ちを表しました。

留学生後援会は、留学生への経済的支援、地域との国際交流の促進を目的として、地域の支援団体及び本学教職員等により構成された組織で、平成 15 年度から毎年、留学生に対し奨学金を授与しています。今年度は、寄付団体名を冠した奨学金 3 人、留学生後援会奨学金 6 人、大阪柏原ロータリークラブ教育支援金 3 人の計 12 人に授与され、代表して本学長尾彰夫学長より一人ひとり贈呈されました。留学生後援会では、今後もこの制度の拡充を目指し支援の輪が広がるよう努めていきます。

ホストファミリープログラム｜グローバル香芝

11月17日（土）、いつも本学留学生のために様々なイベントを企画・開催してくださるグローバル香芝の皆様により、秋季ホストファミリープログラムが開催されました。この日は渡日したばかりの留学生 25 名が参加し、ほぼ全員が初めて体験する「日本の家庭」との出会いに胸高鳴らせました。

会場に到着した際は少し強張っていた表情も、ホストファミリーとのマッチングが終わり、優しいご家族の皆様にお声かけいただくうちに少しずつ和らいできたようでした。楽しいゲームや美味しいお菓子を囲んでの自己紹介が終わり、学生はご家族のお宅へご招待されました。

留学生の間ではすっかり周知されつつあるホストファミリープログラム。文化や言葉は違っても「家族の温かさ」は世界共通なのだと、日本のファミリーと過ごした後の留学生の笑顔を見て感じます。

ファミリーの皆様、本当にありがとうございました。

ホストファミリープログラム参加者の感想

・鄭　池恩（ジョン　ジウン / 交換留学生・韓国出身）

（一部抜粋）集合場所で初めて目があった方がホストファミリーだと決まった時、私は「縁」という言葉を感じました。谷口さんは私の為に着物を着る機会をくださり、手料理も美味しく絶対に忘れることができない味でした。今度のホストファミリープログラムで私を実の娘のように考えてくださって、涙が出るほど感動しました。本当にありがとうございます。

門松づくり体験｜シニア自然大学校

12 月 19 日（水）、シニア自然大学校の皆様主催により、今年度もお正月の「門松づくり」体験を開催していただきました。

参加した留学生達が作りやすいように、じっくり吟味して準備していただいた竹や南天などの材料を前に、慣れない手つきで作業にとりかかる留学生達。ですが、シニア自然大学の皆様に優しく手ほどきいただきながら、1 時間半ほどで皆立派な門松を完成させました。

この日参加した 28 名の留学生の中には今年で二度目という「達人」もおり、七夕の笹飾りとあわせて大人気の体験プログラムです。

普段は勉学に勤しむ留学生達ですが、こうして束の間のひとときを地域の皆様と交流し、楽しみの中で日本文化を学ぶ素晴らしい機会を満喫していました。シニア自然大学校の皆様、本当にありがとうございます。

留学生講演｜柏原市人権推進課

柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座、「異文化の暮らしを学習しよう」では、本学の留学生が講師を担当しています。11 月 7 日（水）には、マダガスカル出身の教員研修留学生、フランシア・ランジアティアナさんが母国について紹介しました。フランシアさんは、母国では高校の教員で、英語を教えています。

アニメーション映画「マダガスカル」がヒットして一躍有名になりましたが、日本人にとっては未知の国と言えるマダガスカルについて、フランシアさんは、民族構成や言語、伝統的な行事、食生活、教育制度、独特な生態系を持つ動植物の紹介など、幅広い話題を取り上げ、スライドで写真を見せながら一つずつ丁寧に説明しました。また、「幸せなら手をたたこう」をマダガスカル語で歌い、来場者も一緒に楽しみました。

聴講された市民の皆様からは「動物ばかりいる国と思っていたが、すばらしい国だと思った」「日本語が上手で、話が良く分かった」「質問にも丁寧に答えてくださって嬉しかった」等、様々なご感想を頂戴しました。地域に根ざした国際交流の取り組みとして、今後も継続したいと考えています。

留学生向けプログラム

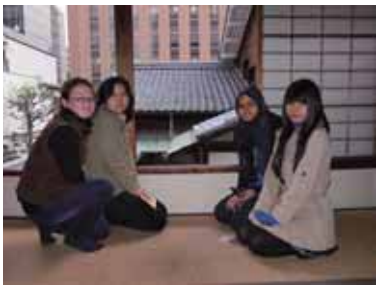
「大阪の文化」

日本語・日本文化研修留学生のためのオムニバス授業「大阪の文化」では、今年も 10 月 19 日に高安にゆかりの深い能楽師、高安勝久さんとシテ方の山下麻乃さんと山中雅志さん、大鼓奏者の高野彰さんを講師にお招きして、大阪と能についての特別公開講義が行われました。講義の後に、実際に大鼓を叩いたり、謡を大きな声をだして練習してみたり留学生は始めての挑戦に熱心に取り組んでいました。

「大阪の文化」では、大阪に縁の深い能についての講演を始め、大阪教育大学の立地を生かして仁徳天皇陵や山本能楽堂、大阪歴史博物館を見学し、大阪市住まいのミュージアム、適塾にも足をのばし、大阪や関西に根差した歴史の面影や文化を体験的に学べます。帰国するころには留学生も関西人の一員になっているかもしれませんね。

「大阪の文化」訪問先

- 仁徳天皇陵
- 山本能楽堂
- 大阪歴史博物館
- 大阪市立住まいのミュージアム
- 適塾及び中之島界隈



（本文内写真）鼓打ち体験
（写真右上から）
（上段右）「高安能」の実演講義
（中段左）適塾前にて、（中段右）鼓打ち体験
（下段左）適塾、（下段右）大阪市中央公会堂前にて

短期派遣留学体験レポート

大学院教育学研究科音楽教育専攻　　一柳　文乃さん
（派遣先：オーボ・アカデミー大学、フィンランド）

■留学したきっかけ

留学したいと一番初めに考えたきっかけは、友達と一緒に行ったヨーロッパ旅行でした。そこで初めて日本以外の国の雰囲気を味わい、もともと持っていた外国への興味がより一層増しました。学部生時代の４年間は部活動や大学の勉強などでとても留学を考えられる状況ではなかったのですが、大学院に進むことを決めたときに、学生のうちに留学という自分のしたかったことを実現したいと思い、今回留学することを決めました。

■留学先大学を選んだ理由

まず一つ目に私は英語を使って生活のできるところ、英語での授業が受けられるところを希望していました。また、大学１回生の時にフィンランドメソッドについての授業を受け、その時から漠然とフィンランドで教育学が勉強したい、という気持ちをもっていました。そんな時に大学からの交換留学先としてフィンランドが新しく追加されたことを知り、ここしかない！と、このフィンランドのオーボアカデミーを希望しました。

■留学先での生活

ヴァーサのオーボアカデミーは教育学部が中心なので、受講できる授業も教育学がメインで、あとは社会科学系と語学系の授業がありました。語学系の授業では、フィンランドは公用語がスウェーデン語とフィンランド語なので私はどちらもベーシックレベルの授業を受講しました。ただ普段使う言語はほぼ英語だったので、英会話の授業も合わせてとっていました。教育学の授業は、Education and Society というフィンランドの教育について学ぶ授業から、Learning Disabilities というディスレクシアなどの学習障害についての授業まで、さまざまでした。その中でも私が一番勉強になったのは Teaching Practice というコースで、この授業を通して大学付属の小学校で教育実習をすることができました。日本の学校とはいろんな面で全く違っていて、授業観察するだけでも新鮮な発見ばかりですし、自分も実際に授業をさせていただくことによってより深い経験を積むこともできました。この経験はこれから日本で教師になる上で、今まで持っていなかった新たな視点を与えてくれたと思います。

■留学して良かったこと

留学をして日本と全く違う文化に触れることによって、自分の世界の見方も変化しましたし、それと同時に日本に対する見方も変化しました。自分の国のことを客観的に見ることによって、改めて日本の良いところ、悪いところも見えてきました。そういう点では、現地の小学校で教育実習ができたことは、自分の日本の教育に対する見方を大きく変えるきっかけになった貴重な経験になったと思います。また、私は音楽の授業が受けられたわけではなかったのですが、大学のコーラスの活動に参加しており、そこでフィンランドの人たちがとてもいきいきと音楽をするのを見て、自分の音楽に対する見方がより自由で豊かなものになりました。

■留学を考える方へのメッセージ

留学に踏みきることはとても勇気のいる大きな決断だと思います。でも、それを実行に移すだけの強い気持ちがあれば、留学生活はとても充実したものになるし、確実に自分の考え方や生き方をより豊かなものにしてくれる有意義な経験になります。今どうしようか迷っている人も、自分が留学をしてやりたいことが明確にあるならぜひ実行に移して、自分の人生の新しい一歩を切り開いて下さい。

平成 24 年度後期修了

教員研修留学生・交換留学生メッセージ

RANDRIATIANA, FRANCIA
（ランジアティアナ，フランシア）
マダガスカル出身
教員研修留学生

私は，マダガスカルが遠いけど大教大で出会った皆のかげで，すばらしい留学生活を過せました。
先生の皆様にも，世話になっていただいて，どうもありがとうございました。

OCRAN, BENEDICT EKOW
（オクラン，ベネディクト　エコー）
ガーナ出身
教員研修留学生

The infinite resource for language study, research and human development are facets I will tout about OKU. It is a pleasure to have such an experience.

RAYABSRI, WATCHARAPORN
（ラヤップシ，ワチャラポン）
タイ出身
教員研修留学生

Thank you "Japan" for giving me the opportunity to obtain valuable experience in Japan during this 1 and a half year duration. I will keep everything in my deepest of memories!

JOSHI, VRUSHALI NARAYAN
（ジョシ，ルシャリ・ナラヤン）
インド出身
教員研修留学生

教師としては年間休たらいたあとも一回学生になって子供と学生世界のいろいろことを考えるようになりました。楽しかったです。とても勉強になりました。ありがとございました！

白　宏太
（バイ　ホンタイ）
中国出身
教員研修留学生

今回の留学生活で，日本の文化や教育を深く理解し，他の国の友達を作り，いい思い出を持つ．本当に嬉しかったです．そして，先生たちがいろいろ教えて，お世話になり，心からありがとうございました！

任　占営
（レン　シャンイン）
中国出身
教員研修留学生

今回の研修で日本に来た．一年間半の生活を楽しくすごすことができた．いろいろな方にお世話になりました，誠に心から感謝しています．

BRUN, DANIEL LEIGH
（ブルン，ダニエル　リー）
オーストラリア出身
交換留学生（グリフィス大学）

大教大で留学をとおして、日本語のスキルや新しい文化などたくさんのことを学びました。この一年は、わすれられないです。とてもよかったです。どうもありがとうございました。THANK YOU！

藩　郁茹
（ハン　イクジュ）
台湾出身
交換留学生（台中教育大学）

この一年間本当に素晴かったです。いっぱい日本の文化を体験して、日本語能力を高め、ほかの国の人と友達になって、本当に良かったです。大教の国際センターの先生と仲間たち、ありがとうございました！

交換留学生
LOCKITT, DOUGLAS ANTHONY

大学院
章　シュ蕾

大学院
周　今卓

大学院
李　国良

大学院
王　浩

大学院
王　全忠

学部
王　丹セイ

大学院
張　文

学部
甘　文

大学院
何　三妹

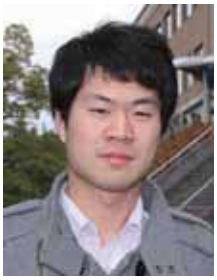
学部
趙　美珎

大学院
胡　洋

学部
郭　嵩

大学院
王　雪菲

大学院
王　娟



黄　掣（コウ　セイ／中国）
2009年4月学部入学　　所属:教養学科情報科学専攻

大阪教育大学で四年間を過ごしてきました。一年目は世界各国からの留学生と交流したり、学校のサークルに参加したりし、国際センターが主催した国際フェスティバルや文化体験研修などの活動に参加したりして、すごく楽しい一年間でした。二年目は専攻の授業がいきなり多くなって、勉強に集中して、一生懸命頑張った一年間でした。三年目はいろいろ困ることがあった一年間でしたが、留学生のことなら、何でも助けてくれる国際センターの先生方のおかげで、順調に過ごせました。今は卒業を迎える四年目で、指導教員からアドバイスをいただきながら、卒業研究に力を入れて、卒業論文を仕上げています。非常に充実した大学生活が送れたと思います。

卒業後、会社に就職するか大学院に進むか、少し迷っていましたが、自分の研究能力を高めていくため、四月から大阪教育大学の大学院に進むことを決めました。最後に、大教大と大教大でお世話になってきた皆さんに心から感謝しております。そして、これからの二年間もよろしくお願いします！

興安（ヘンガン／中国）
2009年4月学部入学
所属:教養学科文化研究専攻社会文化コース

大教大に入学し、あっという間に四年間が経ちました。この四年間の間に様々な思い出を作ることができました。一番印象深いのは四年間柔道に励んだことです。厳しい先輩の指導、優しい同期の支え、ユーモアあふれる後輩のお陰で非常に充実した部活動でした。そして柔道したことで肉体的は勿論、メンタル的にも強くなりました。ここまで僕を成長させてくれた大教大柔道部に感謝の気持ちでいっぱいです。

もうひとつ印象に残っていることは、毎年行われている大教大国際交流フェスティバルに二回も参加できたことです。ここに参加したお陰で日本の皆さん、世界各国の皆さんにモンゴル民族の文化を紹介できたことは一生忘れられません。多民族国家に生まれた私は自分の立ち位置・モンゴル人に生まれてよかったと誇らしく思う瞬間を作っていただきました。このような民族文化を皆さんに紹介できたのは国際センターの方々の支援のお陰でした。特に前係長の吉田さんは朝早くから晩遅くまで荷物などを手伝って下さいました。四年間優しく接してくださった国際センターの皆さん本当にありがとうございました。

そして今年からは大教大を卒業し社会人の仲間入りをしますが、柔道から学んだことを活かし礼儀正しい立派な社会人を目指します。

Nazifa Noor（ナズィファ・ヌール／アフガニスタン）
2009年10月～2010年3月研究留学生
2010年4月大学院入学
所属:大学院教育学研究科・総合基礎科学専攻

I joined Osaka Kyoiku University in September 2010, approximately 2 years ago. I would like to mention that as my first exposure to Japanese culture there were so many things I was not familiar with. However the administration of OKU made me feel like I am in a family where I could easily reach them in case of any problem or emergency. And that helped me a lot to adjust to the new culture. I really appreciate the support and help which I got from everyone here, specially my advisor Prof. Motoyasu Nagata, who always stood by my side, and made me believe in myself. Also my other professors like Prof. Hasegawa Yuri, whom I respect, not only as my professor but also like a mother and a friend, whom I could easily turn to whenever I needed help. The system of international office being responsible for all students' affairs in OKU is awesome; especially for international new comer students it's so helpful. As the administration here provides us every single service to help us adjust and settle down in a new environment. Also I learned so much about different cultures as there are so many international cultural exchange festivals and programs being held, which facilitates us the opportunity of being introduced to different cultures, and learn wonderful things from them.

In conclusion, I would like to say that being student of OKU was one of the greatest things that happened in my life, I am sure the great experiences and vast knowledge that OKU blessed me with will help me in my future goals.

ありがとう！大教大!!

～代表あいさつ～

学部・院を卒業する留学生より

何　木蘭（カ　モクラン／中国）
2007年4月学部入学　2011年大学院入学　　所属:大学院教育学研究科・学校教育専攻心理学コース

私は何木蘭と申します。2004年10月12日に中国の福建省から,教育心理学をもっと深く勉強しようと決心し,日本の大学へ留学しました。日本に来る前,ゆったりした日本語の口調が好きで,子供の頃からドラえもんの漫画やアニメに魅了され,高校時代は当時中国で人気があったSMAPの歌を口ずさんだり,中国語に訳された「源氏物語」などを読んだりもしました。

日本に来て,大都市の光景や若者のファッションなどは北京や上海とあまり変わりませんでしたが,便利な交通機関,礼儀正しい接客,トイレの環境の良さと使用時にメロディが流れるようなアイデアや技術が一杯あることに驚きました。また,二年間かけて,日本語学校で学んで日本語力がかなり伸びて,日本文学などに触れたいという希望も湧いてきました。その熱い思いで,第一志望の大阪教育大学に入学し,社会心理学,行動心理学,発達心理学など幅広く学ぶことができたほか,人と接するときの距離感など,コミュニケーション能力も養えました。そして,同校の大学院に進み,心理学部の先生方の専門分野は多様で,心理学に関するさまざまな考え方を聞くことができ,視野が広がりました。また,ゼミで議論や発表をするなかで,自分の考えを伝えたり,人の話を理解する力を磨けたこともよかったです。

改めて振り返り,私にとって,大阪教育大学と出会えて本当に良かったと思います。素晴らしい教授たちの下で,友人と共に良い環境で勉強ができることと,国際センターの先生も私達留学生の生活の隅々まで配慮していただき,感謝しております。日本での留学生活の思い出は,これからも私の人生の中の大切な一ページとして心に残っていくことでしょう。

＜平成２４年度　卒業留学生＞
学部…７名　大学院…１３名

＜平成２４年度　修了留学生＞
教員研修留学生…６名　交換留学生…２７名（前期２４・後期３）　日本語・日本文化研修留学生…７名

語学・文化研修プログラム

国際センターでは年間を通して語学文化研修プログラムを実施しています。平成２５年度からは一部プログラムが単位化され、ＥＵ圏への語学研修も始まります。本学学生が国際理解を深める機会は拡大しています。

韓国文化体験研修

（研修先：ソウル教育大学）

２０１２年９月３日（月）～９月１５日（土）

西倉　愛理

学校教育教員養成課程１回生／家政教育専攻小学校コース

今回の韓国研修中、初等学校を３校も見せていただいた。初等学校観察の初回の授業は体育で、テコンドーの授業だった。日本の小学校であれば、体育の授業の時に体操服に着替えるのは必須だけれども、その授業で体操服に着替えている子は約 20 人中２人だけだった。授業内容は、外部講師でテコンドーを専門に教えている先生だからか、先生の熱意、パワー、声の大きさが凄く、それに呼応するように子どもたちの集中力も凄かった。

また、同じ初等学校で英語の授業も見せていただいた。そこで一番驚いた点は、英語専用の教室があり、教室内は掲示物も含めて英語しか書いておらず、また、授業を進めるにあたり、生徒が見ているのは、黒板ではなく、中央に置いてある大きなタッチパネルの機能が付いたテレビだった。日本ではまだまだＩＣＴが使われていないが、韓国では当たり前のように、どの学校でも使いこなされていた。

後々感じたことだが、先生の熱意とそれに呼応する生徒の集中力は、この学校特有のものではなく、全ての初等学校の、全ての授業でそうだった。見学した初等学校３校では他にも理科や算数の授業も見せていただいたが、どの授業も児童が興味を示しやすい内容になっていた。

最後に、ソウル教育大学でも特別講義を受けたが、その先生がおっしゃっていた「日本と韓国はルーツを共にする、兄弟のような関係だ」という言葉と、ソウル教育大学の総長がおっしゃっていた「外国に行ったとき日本の物を見ると安心する」という言葉が印象深かった。日韓の溝が埋まる努力を、私もしようと思った。

アメリカ語学研修

（研修先：ノースカロライナ州立大学ウィルミントン校）

２０１２年８月２０日（月）～９月２１日（金）

岩崎　茉莉

教養学科２回生／健康生活科学専攻

私はアメリカ語学研修でたくさんの経験を得ることができました。大学のクラスメイトとの交流は、授業の受け方、英語の話し方、好きな動物など、いろんな面で異文化を肌で感じることが多く、カルチャーショックを受ける日々でした。学校見学では、現地の子供たちとの会話で苦労したことや、感情表現の豊かさに驚くこともありました。私は日本文化紹介の授業で折り紙をしましたが、思うように説明が伝わらなかったことや、紙を折るということがアメリカの子供たちにとって難しかったようで、大変なこともありましたが、子供たちが完成した自分の折り紙を笑顔で見せてくれて、とても感動しました。

アメリカで得た一番大きなものは、友達だと私は思います。毎日、いろんな人と出会い、友達の輪が広がっていくことを実感し、一週目よりも二週目、二週目よりも三週目と生活がどんどん楽しくなっていきました。そして、様々な国の人と交流して、世界観が変わっていくことに気づきました。

アメリカで過ごした一か月間は、本当にあっという間でしたが、今までの人生の中で一番充実した一か月でした。学生のうちに海外で英語を学んでみたいと思い応募しましたが、私は英語を専門で学んでいるわけではなかったため、不安はたくさんありました。しかし、英語の学習だけでなく、アメリカでできた友達や、大学での生活、みんなと遊びにいったこと、全てが貴重な経験となり、これからの生活につなげていきたいと思いました。アメリカに行って本当によかったと心から思います。ありがとうございました。

（アメリカ語学研修レポート）

第８回かしらわ国際交流フェスティバル

大阪教育大学と柏原市との共済による第８回国際交流フェスティバルを、平成 25 年 5 月 18 日（土）本学柏原キャンパスにて開催いたします。今年度も留学生による世界の料理、歌やダンス、民族衣装等の披露、モンゴル・ゲルの展示、出身地を紹介する「ふれあいテーブル」など楽しいイベントを企画しています。　世界を身近に感じることのできる絶好の機会、多数の皆様のお越しを留学生一同心よりお待ちしています！

留学生後援会入会のご案内

☆会員募集中☆

留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。ご関心をお持ちの皆様は、ぜひご加入下さい。

★会費・納入方法★

一般会員…学内職員

・一口1,000円/月、または一括・給与から天引き

特別会員…学外支援者

・振込

任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい

ゆうちょ銀行ぱるる

記号:14120　番号:96618321

名義:大阪教育大学留学生後援会

（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

三菱東京UFJ銀行　藤井寺支店

普通預金　口座番号:5210211

名義:大阪教育大学留学生後援会

（オオサカキョウイクダイガクコウエンカイ）

・現金納入

★連 絡 先★

大阪教育大学留学生後援会（学術連携課国際係）

電話：072-978-3300

E-mail: ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

Over the Rainbow
年2回発行　第12号　平成25年2月20日(水)発行
編集・発行：大阪教育大学国際センター
〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1
http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/
連絡先
電　話：072-978-3300 FAX:072-978-3348
メール：isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp